



今野 國夫 議員

Q 借金の残高と 行財政運営の状況は

A 実質的借金は町民1人あたり 63万円で新聞報道の約半分

議員 北海道夕張市の財政破綻に端を発して、自治体の危機的な財政状況がテレビ、新聞等で報道されています。

県内でも住民1人当たりの地方債残高が発表され、本町は102万6千円で、県内ワースト5にランクされました。しかし、実際には有利な起債を利用して、この残高がそのまま町民の負担になるわけではありません。この機会に、町の財政状況を、分かりやすく、詳しく町民に知らせる必要があります。そこで、次の3点を伺います。

①町の起債(町の借金)の詳しい状況について。
②実質的な「住民1人当たりの地方債残高」はいくらになるのか。

③町の基金残高について。

町長 ①本町の一般会計の地方債残高は85億8千900万円で、町民1人当たり102万6千円です。
今年度末の一般会計地方債残高は、当初、町民1人当たり96万7千円で、前年度より5万9千円(5.8%)減となる見込みでした。しかし、10月の災害により、復旧事業に充てる財源として4億4千万円の起債を発行しました。



災害復旧事業に向けて起債を予定

していく予定です。
企画財政課長 ②今年度の起債総額は9億3千万円ですが、元利償還金のうち7億3千万円は交付税で算入される予定です。これは、過疎債、辺地債、臨時財政対策債、災害復旧事業債などを利用しているため、約84%が交付税措置される有利な起債です。特別会計を含めると、交付税措置は約53%となります。

したがって、住民1人当たりの借金は、一般会計では48万2千円ほどで、特別会計を含めても63万2千円ほどとなり、実質的な財政負担は、新聞報道のおよそ半分となる見込みです。
③町の基金は、一般会計で8億7千万円、特別会計で1億3千万円あり、基金総額は10億円となります。

この結果、12月補正時点での地方債残高は、全会計総額113億1千300万円になり、1人当たりの地方債残高は135万1千円で、17年度末とほぼ横ばいです。
また一般会計では、今年度の元金償還額9億6千600万円に対し、発行額は9億3千万円で、発行額が償還額を下回る見込みです。
このように、災害が大きく影響したものの、地方債残高は前年並に抑制した状況で、19年度以降は大きな災害などが無い限り、減少

この基金のうち、財政調整基金、町債減債基金、地域づくり振興基金は主要3基金と呼ばれ、町の健全運営に最も重要な基金ですが、この総額が5億4千万円です。財政規模に対する基金額の割合は、県平均13%に対し、本町は7%と下回っている状況なので、今後、県平均に近づこうように努めます。



小谷地喜代治 議員

Q 郷土資料館と小田民俗資料館の合併は

A 開館目的異なり、当面はそれぞれ運営

議員 町の郷土資料館には、時代を象徴する生活用具、民具、農耕具等が、貴重な文化財として展示、保存されています。この資料館の管理形態と利用状況を伺います。

また、旧小田小学校を利用した、「小田やすらぎの家民俗資料館」は、老人クラブなど、地域住民

が中心となつて、1千500点を超える資料を展示しており、18年度も県内外から200名以上の来館者があります。

この資料館は、旧小学校であるため、建物にも余裕があり駐車場も確保できます。郷土資料館と併合することで、町の文化財を集

中させ、より有効活用できると思われますが、その考えを伺います。

町長 葛巻町郷土資料館は、旧役場庁舎に民具を中心に239点展示公開しています。教育委員会が管理しており、入館希望があれば随時開館し、主に小学校の社会科見学などに活用されており、17年度の入館者は125

人となっています。

18年8月からは、町内商店街活性化のため、毎週日曜日に、1階スペースの一部を葛巻町TMO(中心市街地活性化機関)会議に解放しており、町民が軽音楽を楽しむ場として使用され、定期開館による入館者の増加を図っています。

小田やすらぎの家民俗資料館は、地元老人クラブが主体となつて、昭和60年頃から収集保存していた地域の農具、民具などを、17年に町が寄附を受けたことから、旧小田小学校舎を活用して展示しています。地域の文化を後世に伝える手作りの資料館であり、岩手大学の学生が資料整理に協力するなど、「官・学

民」の協働のモデルケースにもなっています。



TMO会議に解放し、定期開館を図ります

この二つの資料館は、開館の目的や性格が異なるため、現在は併合は考えておりません。当面は、それぞれの特徴を生かして運営していきます。



貴重な文化財を保存する「小田やすらぎの家民俗資料館」